



紹介者

高橋 知裕

HEROZ
代表取締役Co-CEO

川原 浩

アサヒグループ食品
取締役社長



鮎釣りに学ぶこと

昨年「鮎の友釣り」を始めました。少年時代に『釣りキチ三平』を愛読していたころから憧れていて、業界の大先輩がかなりのベテランと知り、弟子入りしたのです。

竿と糸の先に「オトリ鮎」と呼ばれる生きた鮎をつけて、野鮎のいそうなポイントに誘導すると、水苔を主食とする野鮎は縄張りを守ろうとオトリ鮎にぶつかってくる。その際にオトリ鮎の周りに付けた針が野鮎に引っかかって釣れるという、ユニークな釣りです。釣りというのは魚の食欲を刺激するものがほとんどである中、生きた鮎を操って野鮎の縄張り意識を刺激する友釣りは奥深く、難しく、また優雅な釣りだとも思います。

鮎釣りのシーズンは大体6月から9月です。シーズンを通じて感じたことが二つあります。

一つ目は、日本にはきれいな川が本当にたくさんあるということ。鮎はきれいな川に住むのですが、そういう川は日本中どこにでもあります。半身を水につけながら森の中を流れる清流で一日釣りをしていて、大量のマイナスイオンとアルファ波で日ごろの悩みが吹き飛んですっきりします。日本には豊かな自然がたくさんあって、それを大切にしたい、と心から思います。

二つ目は、今の日本は激しい天候不順の日がとて多いということ。大雨が降り、川が増水して水が濁ると、繊細な鮎はそれだけで何日もの間ほとんど釣れなくなります。最近は夏の大雨、長雨、台風が増えていますので、せっかく予定していた釣行日がみるみるうちに減っていきます。これも気候変動の影響か、と唇を噛んで断念することも多いです。

今年も各地の川で鮎釣りを楽しみました。自然に浸り、その絶妙なバランスの上で楽しむ釣りだからこそ、その変化の影響を強く受けるし、その大切さを心から感じる。そんなことを実感させてくれる鮎釣りに夢中になっています。

▶▶ 次回リレートーク

石井 智康

石井食品
取締役社長